



区議会第1回定例会はじまるー田中まさや幹事長が、代表質問②
税金の使い方は、いのち、くらし、営業、教育最優先に

物価高騰が区民を苦しめるなか、渋谷区は大企業が「稼ぐ」こと、区長のやりたいことを優先する一方、区民には、国保料、介護保険料、後期高齢者医療保険料のトリプル値上げを押し付けるなど区政の役割を放棄する予算を提案してしま...

の拡大などは、財界戦略を最優先にするものです。玉川上水旧水路緑道整備に14億5400万円、加計塚小学校の隣の農園に1億2650万円も投入する一方、敬老祝い金は大幅に削減、奨学資金貸付制度は廃止、国保料や介護保険料、後期高齢者医療保険料のトリプル値上げなど、福祉・教育の切り捨てと負担増を押し付ける冷酷な予算です。

2025年度国保料案

1人当たり平均1万8,340円・12.4%値上げ
年収500万円・40代夫婦と子ども2人の場合・約7万3千円増

区長答弁

いのちを守る点

い方を転換すべきです。所見を伺います。

では、避難所受付アプリの導入など、福祉では神宮前3丁目に重度障がい者のための施設を開設、物価対策ではハチペイのポイント還元などを実施しており、いのちとくらしを守る税金の使い方をしている。

国保料の引き上げ中止、子ども均等割負担ゼロを求める

来年度の国保料は20年連続値上げです。一人当たりの保険料は1万8,340円、12.4%の大幅引き上げで、16万6,455円になります。年収500万円の40代夫婦と子ども2人の場合、9万3,651円の値上げで72万8,905円、収入の15%、協会けんぽと比べて、2.5倍となります。国保加入者は、社会保険に加入できない非正規労働者、中小自営業者、年金生活者など、所得の少ない方々が多くを占めています。わが党区議団のアンケートでは、国保料が重いと答えた方は9割を超えており、これ以上の負担増は、くらしを壊し、無保険者を増やし、いのちの平等を損なうことになりません。

23区特別区長会は、区民負担は限界との認識の下で、厚生労働大臣あてに、国庫負担割合の引上げや公費による軽減割合の拡大を求めています。

国民健康保険は憲法25条の生存権にもとづいており、区長は、公費負担を増やすという立場で、財政負担の拡大と子どもの均等割の廃止とともに、国保料の引き下げのための一般会計繰入を今後も認めるよう国に求めるべきです。

区として、一般会計からの繰り入れを増やして、来年度の国保料の引き上げを中止するとともに、子どもの均等割は無料にすべきです。区長の所見を伺います。

区長答弁

23区長会と課題は共有している。国に対して求める考えも、区として保険料の引き上げ中止や子どもの均等割を無料にする考えはない。

Table with 6 columns: Model Case, Annual Income, 2024 Annual Premium, 2025 Annual Premium, Premium Increase (Yen), and Increase Rate. Rows include various household types like '年金受給者1人世帯' and '40歳未満の夫婦と未就学の子ども1人'.